

# 「やるしかない！林産業を盛り上げるために」

熊谷林産株式会社 代表取締役社長 熊 谷 三恵子

URL <http://www.kumagai-r.jp/>



## ■はじめに

企業訪問も数回目になりますが、今回は津別町の熊谷林産株式会社を訪ねました。この会社には非常に思い入れが強く、現在旭川市で木材加工機械の販売、メンテナンス等のサービスを提供している株式会社コーワキ野田正宣会長に同行させていただきました。以下に取材に基づいた内容を紹介します。

## ■会社概要

熊谷林産株式会社は道東の津別町で製材業を営んでいますが、“女社長”の熊谷三恵子さんが明るく元気に会社を切り盛りしています。現在、4代目として意欲的に取り組み6年目になります。実はハッキリ言って社長業をやりたかったわけでもなく、やりたいと思ったこともなく、それなのに何故私がという思いのほうが強かったのは事実かも知れません。



(熊谷林産株の全景)

会社は初代熊谷留吉氏が昭和38年に創業しました。その後2代目社長として長男の勲氏、弟の敏雄氏が専務として兄弟二人で引き継ぎました。しかし、社長が病気になり、すぐに弟の敏雄氏（三恵子さんの夫）が社長となり順調に会社経営を続けていました。ところが、その3代目も兄と同じ病気を患い、会社経

営に携わるのは困難という状況になったのです。この時にはもうどうしようもなく、会社の存続を断念しようと真剣に考えたという状況にあったようです。その時、3代目敏雄氏の奥さんに対して白羽の矢が立ち、金融機関からのバックアップ、そして周囲の温かい励ましによってごく普通の奥さん、普通の主婦であった三恵子さんが社長として会社を引き継ぐ一大決心をしたようです。この時の思い、決断は並々ならぬものがあったと思います。しかし、やるしかないという強い決意ではあったようですが、本当に気の休まる日もない連続の中で6年目に入ったといききつのようです。この後、会社を息子さん（長男）に継がせようと呼び寄せ入社させましたが、またも運悪くこの息子さんが突然の病気で急死したことです。

それにしてもこうまでも不運が連なりながら、めげずに奮闘している姿を見ると、人間はやる気さえあればできるものだということを、本当に改めて考えさせられます。

昭和38年、熊谷留吉が道路淵に建てた丸ノコ一つでカラマツの梶包材を挽く小さな工場は、当時旭川市の村上木材(株)で営業活動の野田正宣氏の目に留まり、昭和41年頃にVKバーカー（フィンランド製）を入れてもらったのが今の株式会社コーワキとのつながりのようです。

3代目社長は先見の明があり鋭い経営感覚を発揮し、(株)コーワキとの深いつながりの中で一大決心をして最新の製材機械を入れるなど、お互いが強い信頼関係で結ばれているからこそ高価な機械の導入もでき、そのお陰で今日があるような気がしていますと話しています。この社長は他人がやる前にやる人であったと言い、ある時に新たな構想を練った末に機械の導入を決定するなど度胸良く取り組まれる姿

勢は、まさに眞の経営者であると言つても過言ではないと思います。それにしても経営戦略とは一大決心であり、信頼関係であり、大変な苦労が常にあるものだということを知らされました。



(製材工場の様子)

現在の熊谷三恵子社長は、やらざるを得ない状況で社長となってバブル後の10年間は本当に苦しい状況であったと言い、小さな木材屋が今まで何故生き残ったのかを考えたとき、そこには先代の考え方が脈々と社員に継がれているからということです。朝夕の掃除から始まり役割分担、安全第一という基本に忠実な当たり前の考え方が地道に会社を存続させることができる秘訣ではないかと思うところです。

また、社長は経営を考えたときには朝の3・4時から出社し、様々な調べものをし、勉強をし、苦労の連続であったそうで、パソコンもいち早く導入して自ら帳簿管理、在庫管理などをこなしてきたようです。会社は丸坊主の状態から6年目に入っていますが、「儲からない商売です。経営能力が無いから困っています。大変です。」と語っていますが、趣味を通じながら人のつながりを重んじ、商売につなげる努力をして頑張っております。

## ■会社の事業紹介

現在、社員は27名（パート含む）で梱包材を主体に生産しています。原木挽き立てはカラマツ70%，トドマツ・エゾマツ30%の割合で、一般材・チップ合わせて年間3万m<sup>3</sup>を挽き、製材出荷は1.5万m<sup>3</sup>、チップ1.8万m<sup>3</sup>となっています。カラマツは資源が見

えてきたと言い、10年ほど前からトドマツに変えてきています。



(カラマツ、トドマツ製品)

昭和38年の創業以来製材業を営んでいますが、設備の老朽化が進んでいたことから、平成14年にフランス製の機械を導入し第2工場を新設しています。この設備は日本では熊谷林産を始め数社のみであり、旧工場の3倍の生産力があり、ギャングソーによって素晴らしい製品化につながり全国に出荷しています。

## ■今後の展開を考える

「会社は潰れないようにやるのが社会への使命」であると言い、職場環境の整備が大事であり、古い建物の処理等の後始末や工場周辺の舗装など普通は後回しになりがちなことを率先して整備しています。「事業内容は変えない、今は事業が順調」と語られ、将来は専務である息子さん(2男)に引き継ぐことも視野に入れ、後は若い人の考え方で展開してもらえば良いと力強く話しておられました。

それにしても本当に元気よく、エネルギーッシュ、バイタリティあふれる“女社長”です。これならば、これからも木材産業を大いに盛り上げていってくれると思います。

(文責:北海道林産技術普及協会 植杉雅幸)